

医療・介護・福祉関係者、法曹関係者の必読の書

本邦初の研究書「介護殺人——司法福祉士の視点から」。衝撃の刊行から10余年。前著で広く社会に警鐘を鳴らした著者が、介護者の抱えると苦悩と現状に迫り、どのような支援をすれば救い得たのか詳細なデータをもとに解説する。関係各所から待ち望まれた続刊がついに刊行！

介護殺人の予防


——介護者支援の視点から

湯原 悦子 著 (日本福祉大学社会福祉学部准教授)

《A5判／並製／2,400円(税別)》

「私達は死んではならない」

将来に、悲観しなくてもよい、社会を目指して



「雲間から光が差す日はきっと訪れる。苦しみのさなかにある介護者の方々、どうかあなたの力が尽きないように、そして心にポッと灯がともる出会いがあるようにと、私は心から願う。本書がそんな出会いを創るきっかけとなることができたら、それ以上の喜びはない。」

(本書「あとがき」より)

クレス出版

■刊行の目的■

まえがき

この本は繰り返される介護殺人に心を痛め、何とかならないものか、どうしたらよいのかと思ひ悩む人々に可能な限り実態をお伝えし、ともに予防に向けた方策を考えるきっかけになればと願って執筆したものである。

介護殺人の研究を始めてからすでに20年近くが経過し、このテーマは私のライフワークになりつつある。長い間、介護殺人を調べ続けたことで、今では事件のサワリを聞いただけでもどのような内容なのか、だいたい予測がつくようになった。それと同時に、介護者を苦しめる根本的な原因がどこにあるのかについてもかなり理解できるようになってきた。せっかく得た知識を私のなかに留めて置くのはもったいない。社会から投げかけられる「介護殺人を防ぐにはどうしたらよいのか」という問いにきちんと応えたい。もう一度、私が多くの事件との出会いのなかで悩み、考え、見出してきたことをお伝えし、世に問いたいと思ったのが本書を執筆した動機である。

介護殺人のなかには、事前の予測が難しいものもあるが、少し視野を広く持つことにより危機を察知でき、事件回避が可能であったと思われるものも少なくない。まずはそういう事例から確実に防いでいくことが大事である。そのうえで、似たような介護殺人が繰り返し生じるという社会そのもののあり方を問い、改善をめざさねばならない。多くの介護者が悩み苦しむのであれば、それは個人の努力で何とかすべきものではなく、社会の構造から発生する困難と位置づけ、社会で解決すべきものとする。

このような考えに基づき、本書は介護殺人の予防に焦点化し、その点から重要な示唆が得られる11事例を選び、前著と同じく裁判「事例」研究の手法を用いて分析と考察を行った。どれもこれも、被告が経験した困難や絶望がひしひしと伝わってくる内容である。時間のない方はぜひ、第3章から第5章に挙げた事例だけでも目を通していただきたい。きっと、今の高齢者介護への疑問が心のなかに湧き上がってくると思う。そのうえで、改めて「介護殺人を防ぐにはどうしたらよいのか」について、多くの方々と語り合っていきたい。介護の役割を担ったとしても、「将来に悲観」しなくてもよい社会の構築は、私たちに課せられた課題でもある。

(本書「まえがき」より一部抜粋)

■本書の目次■

介護殺人の予防——介護者支援の視点から

まえがき

序章

- 第1節 研究の背景と問題意識
- 第2節 研究の目的と方法
- 第3節 論文構成

第1章 介護殺人の実態

- 第1節 公式統計から確認できる介護殺人
- 第2節 新聞報道から確認できる介護殺人
- 第3節 介護殺人事件の分析と事例検証

第2章 介護殺人に関する先行研究

- 第1節 「介護殺人」の定義をめぐる議論
- 第2節 日本における介護殺人の研究動向
- 第3節 海外における介護殺人の研究動向
- 第4節 考察—研究の到達点と今後の課題

第3章 事例に学ぶ なぜ事件を回避することができなかったのか

- 第1節 介護殺人事件の判例分析
- 第2節 事件が生じる寸前で思い止まれた人の体験談分析
- 第3節 考察

第4章 介護殺人の防止① 第三者による介入の可能性

- 第1節 調査の概要
- 第2節 結果と考察

第5章 介護殺人の防止② “将来に悲観”しなくてよい社会に

- 第1節 調査の概要
- 第2節 結果と考察
- 第3節 生存権の保障はどうあるべきか

第6章 介護者を社会で支える

- 第1節 介護者支援の理論的根拠
- 第2節 日本の介護者支援はどうなっているか
- 第3節 海外の介護者支援施策に学ぶ

終章

- 本論文の結論、意義と限界
- 今後の研究課題

謝辞

あとがき

初出一覧

巻末資料 1996年から2015年までに生じた介護殺人事件一覧

■本書の特徴■

- ・介護殺人は、必ずしも“介護に疲れ”ていなくても、“将来に悲観”することで生じている
- ・事件回避が可能な介護殺人の裁判事例を取り上げ、著者が詳細に解説
- ・加害者、被害者、それを取り巻く周囲の人々の声を含め、悲劇を防ぐための考察を提示
- ・巻末資料として、1996年から2015年までの最新の介護殺人事件一覧を掲載
- ・前作を踏まえて見えてきた介護者支援の在り方、それをどう展開していくか具体例を挙げ、今後の展望を示す

■既刊 介護殺人——司法福祉の視点から 目次■

(上製：初版2005年／並製：改装版2010年 刊行)

介護殺人——司法福祉の視点から

第1章 介護殺人の全体状況

- 第1節 既存の統計資料の分析
- 第2節 介護殺人に関する先行研究
- 第3節 1998年から2007年までに生じた「介護殺人」事件

第2章 介護殺人の分析方法

- 第1節 分析枠組
- 第2節 裁判「事例」研究の実際

第3章 典型的な事件の分析

- 第1節 検討事例の抽出
- 第2節 事件の発生プロセスと背景要因

第4章 事件の発生防止に向けて

- 第1節 背景要因から見出せる課題
- 第2節 事件回避の可能性

第5章 規範的解決の前進

- 第1節 介護殺人を見る視点
- 第2節 規範的解決の可能性

第6章 介護殺人の「実体的解決」をめざして

- 第1節 介護殺人事件の「その後」
- 第2節 試論—介護殺人の「実体的解決」

終章 本論文の研究上の位置と課題

クレス出版 好評既刊書 (定価は税別)

<p>百年前の家庭生活 ●「百年前の日本の家庭生活はどうだったのか」4人の専門家が資料で提示する。 湯沢雍彦・中原順子・奥田都子・佐藤裕紀子 著 定価1,500円(税別) ISBN4-87733-336-3</p>	<p>家庭文庫 全12巻・別冊解説 ●大正中期を代表する家庭論の一大叢書を全冊復刻。別冊解説執筆者も多彩。 上笙一郎・山崎朋子 編纂 全12巻：揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-326-6(セット) 別冊解説：並製 定価1,000円(税別) ISBN4-87733-327-4</p>
<p>牛島義友著作選集 全五巻 ●教育心理学の「研究」と福祉施設の「実践」の統合を追求した著作論文を集成。 安藤延男 監修 全五巻 揃定価82,000円(税別) ISBN978-4-87733-530-4</p>	<p>司法統計年報 全10巻 ●昭和27年～31年までの家族紛争や少年非行の実情を数字で明確にする。 湯沢雍彦 監修・解説 家事編 全5巻 揃定価70,000円(税別) ISBN978-4-87733-361-4 少年編 全5巻 揃定価72,000円(税別) ISBN978-4-87733-367-6</p>

苦悩する介護者をどうすれば救えるのか——介護社会の闇に光をあてる



湯原悦子の話題の書 好評発売中

■既刊

介護殺人——司法福祉の視点から

■新刊 2017年2月刊行

介護殺人の予防

——介護者支援の視点から
 ≪A5判/並製/各2,400円(税別)≫

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロ一ナ日本橋
 ☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版

きりとり

書店印	注文書名(冊数を記入)	クレス出版	
担当：	新刊 介護殺人の予防——介護者支援の視点から ISBN978-4-87733-956-2 C3036 ¥2400E		冊
	湯原 悦子 著	A5判/並製/定価2,400円(税別)	

きりとり

書店印	注文書名(冊数を記入)	クレス出版	
担当：	既刊 介護殺人——司法福祉の視点から ISBN978-4-87733-561-8 C3036 ¥2400E		冊
	湯原 悦子 著 (旧姓 加藤悦子 名義)	A5判/並製/定価2,400円(税別)	